

「世界の哲学展」という期間限定の催しがあなたの住む近くの博物館で行われている。そこには失われた先人たちの常人には理解できない美学が展示されている。あなたが何気なくテレビ(あるいはインターネット、情報の類)を見ていると、速報が流れた。<「怪盗ルパン三世」が予告を表明。「世界の哲学展」に展示中の書物、『キタブ・アル＝アジフ』を対象にする模様>

怪盗とイスラムの魔

お昼のニュースのトップがどのチャンネルもルパンの話だった。主催者・博物館側は嚴重に警備を強化したうえで予定通り最終日まで展示を継続するという。

【概要】

ルパン三世とその一味をNPCとして登場させるクトゥルフTRPG(現代)専用のシナリオです。クトゥルフ神話の象徴ともいえる魔導書、ネクロノミコンをめぐる探索者は狂気へといざなわれていきます。推奨技能としては<図書館>、<オカルト>、<説得(言いくるめ)>、<外国語>が挙げられます。職業は【探偵】【刑事】【オカルト作家】などを推奨します(それ以外の職業では<信用>が必須です)。推奨人数は1~3人くらいです。

【キーパー情報】

ルパンとその仲間はネクロノミコンの危険性について知っており、展示中のネクロノミコン(キタブ・アル＝アジフ)を処分しようと考えています。

峰不二子に関しては一味とは行動をともしせず、プレイヤーが登場を要請した場合のみ登場させてください。また、ほかのルパン一味、銭形警部とは極力接触しないよう行動させてください。彼女はネクロノミコンには興味がなく、無関係な人間を巻き込ませないように動いています。この峰不二子の正体はニャルラトテップです。本物はたぶん別のところにいます。

銭形警部はネクロノミコンの危険性を知りません。彼はルパンとその一味を逮捕するために博物館にきており、探索者に対して態度は冷たいですが、ルパン逮捕に協力すると言えば好意的に接してくれるでしょう。

《ルパン三世についてPCの知識》 《大怪盗・アルセーヌ・ルパン》を祖父とする世界をまたにかける大泥棒。華麗なる盗術にはファンも多い。仲間に石川五右衛門を先祖に持つ《十三代目・石川五右衛門》と早撃ちのガンマン《次元大介》がいる。<知識>などを成功させて、今までの大まかな遍歴を知っていてもよい。

【博物館】

探索者の最も近くにある博物館。郷土のものを展示している常設展示スペースと期間限定の展示を行うイベント展示スペース、図書館が存在する。開館時間は10:00~20:00
//イベント展示スペースさえあれば、探索者の住む場所によって博物館を改変してもかまわない。

【ルパン三世の予告文】

博物館に送られた予告文。学芸員が発見し館長に報告、館長がマスコミに発表し銭形警部に渡した。全文は一般人には公開されていない。《最終日の閉館時、世界の哲学展に展示されている「キタブ・アル＝アジフ」を盗みに参ります》と書かれている。

館長はマスコミに発表する予定はなく、即警察へ報告したが、主催の人間がマスコミで発表するように催促した。

【博物館の館長】

西川 邦弘(にしかわ くひろ)。ルパンの予告状をマスコミに発表した人物だが、発表することを決定したのは主催である。初老の男性であり、恰幅がいい。銭形警部とともに博物館におり、探索者が接触するには警部に建物の案内をしている途中や館長室での会議中、喫煙室で一服しているときだろうが、探索者が話しかけていても、ルパンに関してはニュース以上の情報は知らないと言う。今回の展示に関しても博物館側は展示する場所を貸しているだけであり、展示物や内容については主催側に一任しているので知らないと答える。主催とは一度挨拶したことがある程度で、詳しくは知らない。

【銭形幸一警部】

博物館の館長から連絡を受け、ルパン逮捕と今回の獲物「キタブ・アル＝アジフ」の保護をすることになる ICPO のルパン三世専従捜査官。

今回の展示に「キタブ・アル＝アジフ」がないことを知っており、単純にルパンが獲物を間違ったのでは、と笑い飛ばしているが実際はこの事件には裏があると感づいている。ルパンの本当の狙いは世界啓蒙会の何等かの目論見を阻止するところにあるのではと予測している。

探索者が、世界啓蒙会の狂気や疑問について話すと彼は自分の考えからルパンがなぜこのような予告状を書いたのか気になっていること、予告状の「キタブ・アル＝アジフ」が示す意味、そして世界啓蒙会の本当の目的がどんなものなのか分からないためルパンたちの行動が読めないことを話す。そして探索者に危ない仕事であることをことわってから、探索者に展示会の警備で動けない自分に代わって世界啓蒙会がこの展示で何を企んでいるのか探してほしいと依頼する。探索者が彼の依頼に了承すると彼の連絡先を教えてもらえるし自分のできることなら協力すると言ってくれる。彼は自分の名刺の裏に、探索者が銭形警部の臨時の助手であることを証明するサインをしてくれるだろう。

【世界の哲学展】

近くの博物館にて1週間限定で行われているイベント展示。日本全国を回っている。主催は世界啓蒙会・日本支部。ルパンが予告をだした次の日(つまりゲーム内時間で明日)まで開催している。探索者が閲覧にいくと、ルパン効果なのか人がかなり多い。入場料は一般 1000円、中高生 700円、小学生 500円、未就学児無料。入場時にパンフレットが手渡される。主に3世紀から10世紀の哲学者に編纂された書物や図画が展示されている。幻想的な絵画から人体解剖図、さらに宇宙の創造を解説したものがある。観覧者は気分が悪くなったという人もいれば、素晴らしいものだったと絶賛する人がいるなどさまざまである。0/1でSAN値チェック。

展示の目玉は「ネクロノミコン」である。『950年ビザンチン人のテオドラス・フィレタスによってギリシャ語で翻訳された本。1050年にコンスタンティノーブルのミカエル総主教によって没収・処分されたものの中で現存したものである。』と説明されている。強化ガラスに囲まれた展示台にページが開かれていない状態で展示されている。人だかりが多く、警備員により近づくことができないので<目星>などの技能は不可能。

【哲学展のパンフレット】

「世界の哲学展」と表紙に書かれているパンフレット。中身は略地図と展示物の説明になっており、主に中世の哲学者たちが宇宙の神秘について表現したものが展示されていることがわかる。最後のページは見開きで世界啓蒙会の説明になっている。

【世界啓蒙会】

//このシナリオオリジナルの架空の団体です。悪しからず。あとフィクションですので実際のあらゆるものと何の関係もないです。

1925年にアメリカで発足した宇宙の神秘と真実を追い求める団体。古代から中世の哲学者の著作や当時の世界情勢、異常気象の関連性を研究している。日本支部ができたのは1980年ころで、妖怪やおとぎ話、歴史上のミステリーを対象に研究していた、夢幻研究会が合併され設立した。今回の展示については自分たちの活動を広く知ってもらうための広報活動であるとパンフレットに書かれている。

インターネット上では「正体はカルト教団であり、何かと危ない儀式を行っているらしいとか、儀式のために生贄を捧げているため慢性的な構成員不足らしいとか、世界征服をもくろんでいるのではないかとか、とりあえずやべーやつっぽい」といった扱いであり、オカ板へビーねら一なら一度は見たことのある団体名である。

これについてインターネットで検索しても上のような5ch(旧2ch)のスレッドがいくつか見つかるくらいである。

世界啓蒙会が編集した本もいくつか出版されているが、内容は難解で理解するには<INT×5>で成功する必要がある。成功した場合、説明的で感情のない、内面的な語彙で紡がれた文章に深淵を覗いたような気にさせられる。0/1d3でSANチェック。

【ネクロノミコン】

今回の催し「世界の哲学展」で展示の目玉とされているもの。博物館で得られる情報は上記以上にない。また、目玉であるとしてあるのにスーベニアスペースにはネクロノミコンをモチーフにしたグッズは存在しない。担当者に理由を聞くと主催者の意向であると伝えられる。

その不可解な伝説から創作ものにはよく登場している名前なので名前だけは知っている探索者は多いだろう。図書館、またはインターネットで<図書館>、あるいは<オカルトの1/2>に成功すると、どこかの博物館に保管されているが保存状態が悪く、一般公開されていないので実際に見ることはできないこと、著者は執筆後白昼の路上で衆人環視の中、目に見えない怪物に生きたままむさぼり食われて死亡したこと、この本を読んだ人は狂人となってしまう、ネクロノミコンに取り込まれてしまうらしいこと、黒魔術の究極の姿であり多くの魔導師が手に入れようとし狂気に囚われたこと、ネクロノミコンを読んで理解するにはネクロノミコンに認められる必要があるらしいなど、真実か嘘か分からない多くの逸話がついていることがわかる。

【キタブ・アル＝アジフ】

ルパンが予告文に書いた今回のターゲット。世界の哲学展にはこの名前の書物は展示されていない。図書館、インターネットで<図書館>に成功すると、アラビアの哲学者で詩人のアブドゥル・アルハザード(700頃～738)によって730年ころダマスカスにて書かれたものであり、中世の学者により写本が多く出回っていたが焚書されるなどして12世紀ごろにはすでに原本は存在しないとわかる。(キタブとはアラビア語で“本”のこと。)

さらに深く調べる宣言をした場合 or クリティカル、スペシャル情報としてこの本を翻訳したものは最初にギリシャ語に翻訳されたものに倣い「ネクロノミコン(死の法規)」と呼ばれていることがわかる。

【マスターシーン】

ある程度探索者がネクロノミコン、およびアル＝アジフについて調べ終わると、見知らぬ男から話しかけられる。「ルパンを追っているのか？」探索者の答えが何であれ、男は語りだす。

「熱心にうちの展示を見てくれていたのでね、今日は、あの怪盗が予告状を出したせい、人が多かつたらう、あまりじっくり見ることはできなかつたんじゃないか？もし、君が良ければ、閉館後、ゆっくりと見てみたいと思わないか？」

男は、「植崎 隆(うえざき たかし)」世界啓蒙会・日本支部の支部長、そして今回の「世界の哲学展」の主催者であると名乗り、名刺を差し出す。

【世界啓蒙会・植崎隆】

世界啓蒙会・日本支部長。プレイヤーに好意的に接し、質問にはある程度答えてくれる。決して口には出さないが、探索者を世界啓蒙会に迎え入れようと考えているため、啓蒙会の素晴らしさを時々織り交ぜて話す。身長が高く、手足も長い。少し派手なスーツを着ている。

ネクロノミコンについて質問すると博物館で説明された内容と変わらない返事が返ってくるが、探索者がネクロノミコンに興味を持っていることに関心を持っており、閉館後、間近で見ることを提案してくれる。

「キタブ・アル＝アジフ」について名前は知らないが、ネクロノミコンの原典はアラビア語で作られたことを知っているため、ルパンの狙いはネクロノミコン、あるいはその一部ではないかと推測している。

ルパン三世については詳しくは知らないが、ネクロノミコンは世界啓蒙会の重要な書物であるため、盗まれるわけにはいかないと述べている。

探索者が植崎の提案に乗るなら、20:00 頃、博物館に向かえば彼が迎えてくれ、「世界の哲学展」に入れてくれる。

もし探索者が植崎の提案を拒否するなら、彼は悲しい表情をして、世界啓蒙会のパンフレットを手渡し探索者と別れる。パンフレットには上記の世界啓蒙会の説明のほか、現場に最も近い事務所の住所と電話番号が書かれている。この場合、夜の展示会のイベントは発生しない。

【夜の展示会】

閉館時間を過ぎても、ルパン逮捕と「キタブ・アル＝アジフ」の保護のため、警察が館内に多くいる。植崎が説明して中に入れるよう交渉すると、身体検査でルパン三世とその一味でないことを確認したのち、銭形警部の同行のもと入れてくれる。

ネクロノミコンのほか、いろいろな展示物もじっくり見ることができるが、どれも不気味なものばかりである。0/1d3 で SAN チェック。

間近で見るネクロノミコンはほかの展示物とは違う、ただならぬ雰囲気を醸し出している。＜目星＞＜アイデア＞成功で表紙が通常の紙ではなく、何かの動物の革を使っていることがわかる。さらに＜アイデア＞＜医学＞成功で人の皮ではないかと考えてしまう。0/1d3 の SAN チェック。

ネクロノミコンは探索者が望めば、ガラスケースから取り出し、手袋着用で触らせてくれる。表紙を触った感覚で表紙が乾燥した人の皮で作られていると確信してしまう。1/1d4 の SAN チェック。中身は外国語で書かれていて、いくつか図表や星図も書いてある。図表や星図だけを流し読みしても恐ろしい内容であることが分かり、狂気そのものであると直感する。

1d3/1d6 で SAN チェック、＜クトゥルフ神話＞に+3%。＜言語(ギリシャ語)＞に成功しても読むことは不可能である。＜言語(アラビア語)＞＜知識＞に成功でこの文字はギリシャ文字ではなく、アラビア文字であると気づく。＜言語(アラビア語)＞成功の場合一節でも読んでしまうためネクロノミコンの持つ狂気性を垣間見てしまう。1d6/1d10 で SAN チェック、＜クトゥルフ神話＞に+5%。長くは読ませてくれないため呪文の獲得はできない。

ギリシャ語で読めないことについて植崎に伝えると、自分は外国語の中でも英語しか読め

ないのでこの本を読んだことはない、だから知らなかったという。そして探索者が外国語を理解できることに興味を持つ。

銭形警部がアル＝アジフがネクロノミコンを指すことを知っていた場合、読みたがるため、探索者はネクロノミコンを渡してもよい。

また、植崎は銭形警部同行でほかの展示を見ることを勧めてくれる。その間植崎は展示スペース入口で待っている。展示会の探索が終われば、植崎は家まで送ると言ってくれる。また、植崎は探索者と別れるときに明日の予定を聞いてくるだろう。探索者は嘘のスケジュールを教えてもいいし、世界啓蒙会のアポイントをここでとつても植崎は喜んで了承するだろう。

【世界啓蒙会・事務所】

探索者の住む近くの都市のとあるビルの一部にある。アポイントをとっている場合は受付に話しかけると植崎を呼んでくれる。もし取っていない場合は植崎の名刺を差し出すなどすると受付がいぶかりながらも通してくれる。

部屋の扉には「会議室」「資料室」「応接室」「休憩室」「事務室」と書かれているプレートがかけられている。

探索者は植崎のいる応接室へと通されるだろう。植崎は探索者が訪ねてきたことに喜んでくれ、事務所の資料室を案内してくれるという。もしほかに行きたい場所があればそちらに向かってもかまわない。

「応接室」→シンプルなソファがテーブルを挟んで並んでいる。窓際に設置された棚の上に多肉植物と写真たてがあり、中には文章が書いてある。＜目星＞成功で「That is not dead which can eternal lie, And with strange aeons even death may die.」＜言語(英語)＞成功で意味を理解する。≪永久に存在し続ける能力があるものであるそれは、死んでいるのではない。そして異常な時、異常なものが来たとき、そのとき死は終わるだろう。(基本ルールブックより)≫¹0/1のSANチェック。

「会議室」→折り畳み可能な机と椅子が向かい合って置いてあつたり畳まれて壁際にならべてあつたりしている。これといってめばしいものはないが、応接室にあつたものと同じような額縁が壁にかけてある。

「事務室」→いたって普通のオフィスと変わらないように見える。中にいる人は忙しそうにしている。今回の事件に関してマスコミから取材依頼の電話やメールがひっきりなしに来ているようで、話しかけようとしても植崎に止められるか事務員から、多忙であることを理由に会話を拒否される。展示会のパンフレットのほか、世界啓蒙会のパンフレットもあり、探索者が希望すれば無料で渡してもよい。

「資料室」→天井まで届く高い棚の中にファイルが陳列している。＜図書館＞成功で数多の

1 久遠に臥したるもの、死することなく、怪異なる永劫の内には、死すら終焉を迎えん

ファイルの中から以下の文章を見つける。“ネクロノミコン……原典はアラブの狂詩人によってアラビア語で書かれているものである。現存する版は原典を翻訳したギリシャ語版をさらにラテン語版に翻訳したもので、パリのフランス国立図書館、アーカムのミスカトニック大学図書館、ハーバード大学ワイドナー図書館、ブエノスアイレス大学図書館、大英図書館にある。ラテン語をもとにした不完全翻訳が多く世界中に出回っており、それらすべてを回収することが我々の使命の一つである。”

「休憩室」→換気扇が忙しく回る部屋で、部屋の隅に灰皿がおいてある。長髪の男性が一人で煙草を吸っており、探索者の姿を見る途端、小さく呟く。〈聞き耳〉、〈幸運〉成功で彼が呟いたことがわかる。「銭形警部殿……ではないな」

【休憩室の男】

長髪で洋服の上からでもわかるほどアスリートのような筋肉を持っていることがわかる。脚が悪いようには見えないが杖を持っている。植崎が近くにいれば、彼を見るなり、「ああ、すみませんね、記者さん。この方は今回のうちの展示に興味を持ってくださった人で……、たぶんあの怪盗の仲間ではないですよ。この事務所にも少なからず展示品のような資料はあるのでね、それを見せてあげようと思ひまして……」それから探索者を見て、男はオカルト系の月刊誌の記者で、今回の展示についてインタビューをしに来たという。

記者さんと呼ばれた男性は植崎に向かって、「支部長殿、今回の展示について参加した一般人の話も聞いてみたい。この方に対面で話を聞かせてもらってもよろしいだろうか」と問う。植崎は「ええ、構いませんよ、応接室をお使いになりますか？」と答え、探索者にインタビューを受けるか問う。探索者に対して答えたほうがいと催促するだろう。探索者が了承すれば、「では、行こうか」と記者は短く答え、休憩室を後にする。それから植崎は「じゃあ、彼、一対一で話したいって言ってたから。僕は事務室にいるね。終わったらそのまま資料室にでも行っていいよ。もし帰るときは僕に一言、声かけてね」と言って休憩室から出る。探索者が応接室に向かうと記者が棚や写真立てを見ている。そして探索者が入室したときに席に座るよう手で指示する。探索者が座ったあと、向かいの椅子に座って口を開く。彼は探索者の人となり調べるために質問を行う。質問は全部で3つある。今回の事件、「キタブ・アル＝アジフ」をルパン三世が盗もうとしていることについてどう思っているか。世界啓蒙会という組織についてどう思っているか。銭形警部についてどう思っているか。探索者は正直に回答してもいいし、嘘を言っても黙秘してもかまわない。

3つの質問に答え、探索者がルパン一味の味方となりうる(世界啓蒙会に不信感を持っている、銭形警部と接触し彼を信頼している)と判断できる場合、自分は雑誌記者ではなく、《十三代目・石川 五右衛門》であると名乗る。そしてルパン三世の予告状に書いてあった「キタブ・アル＝アジフ」について、自分の知っていることであれば話そうという。

【予告状の真実】

キタブ・アル＝アジフは失われたアラビア語で書かれたネクロノミコンの原典である。12世

紀には既に失われたはずのアル＝アジフはカルティストたちによって隠されながらも存在し、アメリカに渡り、アル＝アジフに魅入られた者たちが集い世界啓蒙会をつくった。あの展示会にあったネクロノミコンはアラビア語で書かれたキタブ・アル＝アジフそのものの写本である。

世界啓蒙会の真の目的は神々の総帥、魔王(KP 情報:アザトース)をこの世に呼び出して世界に啓蒙することであり、そのために必要な魔力、つまり人の信仰と探求心を集めている。今回の展示会で《ネクロノミコン》に興味を持ったものを啓蒙会に受け入れ、混沌の中心を呼び出すための生贄にしようとしている、という。この情報は確かな筋、《峰不二子》からの情報であると言う。

「あの本はただの魔導書や哲学書の類ではない。読む人すべてを狂気の深淵へ連れていく。仮に狂気から帰ってこれることができても、もはや同じ人間ではなくなってしまうだろう。あんなものは地獄に送るべきものだ。……御主の手で、この人類の危機を止めたいと思うか？」

「いずれにせよ、御主はこの一連の関係者になってしまっている。約束の時まで時間がない。御主には責任が重いと思うが、この世界を生かすも殺すも、御主の意思が関わってくるだろう。」

五エ門はそういつて、事務所を去る。

探索者は植崎の言う通り、資料室に寄ってもいいし、帰ってもかまわない。

【世界の哲学展・最終日】

もともとマニアックな内容であったために人の入りは多くはなかったが、ルパン三世によって広告されてしまったことで入場列ができています。10分ほどすれば、中に入ることは可能である。展示物は前日のものと変わらないが、人の数が段違いである。あまり長い時間見ることはできないだろう。＜目星＞成功で入場者が係員に話しかけている光景をよく目にする。＜聞き耳＞成功で「キタブ・アル＝アジフはどこ？」という声が聞こえる。

係員にキタブ・アル＝アジフについて聞いても、そのようなものは展示していません、としか答えない。何度も聞かれて疲弊しているようである。

銭形警部と連絡を取って情報を渡してもかまわない。展示品中でもネクロノミコンの警備をより強化するよう考えているが、植崎には現状でよいと言われていること、ネクロノミコンの危険性をルパンたちが知っていながらなぜ盗もうとしているのか疑問に持っていることを話してくれる。

探索者が人混みに流されていると、後ろから肩をたたかれる。探索者が振り返れば帽子を目深にかぶった顎ひげをたくわえた男がいる。そして探索者に少し聞きたいことがあるから、一緒に来てくれ、と言われる。

【帽子の男】

男はキタブ・アル＝アジフとネクロノミコンの関係について知っているかと尋ねてくる。

そして植崎隆という人間を知っているかどうかを聞く。探索者が帽子の男の正体を知っている場合や、警部の名刺を使用した場合は質問しない。男は自分の名前を《次元大介》と名乗り、《峰不二子》から探索者のボディガードを任されているという。質問があれば自分の知っていることなら何でも聞くという。得られる情報は【予告状の真実】である。また、普段《峰不二子》が自分に依頼しないため、彼は《峰不二子》に対して不信感を持っている。依頼を受けたのは《峰不二子》の様子を探るためでもある。

【峰不二子】

もし、探索者が峰不二子の登場を強く希望したら、登場させても構わない。このシナリオに登場する彼女はニャルラトテップの化身である。また、ルパンたちに《ネクロノミコン》と《キタブ・アル＝アジフ》の危険性を伝え、それらの回収あるいは破壊、次元大介に探索者の保護を依頼した本人である。探索者に、「ルパンを出し抜き、彼らより先にキタブ・アル＝アジフを盗んでみろ」と依頼する。ルパンが展示品を盗むタイミングは植崎との戦闘中であるため、依頼を達成するにはそれより先に盗む必要がある。窃盗は普通に考えて犯罪なので、人通りの多いとき、特に警察の前で窃盗の宣言をした場合、現行犯逮捕される。基本的には不可能。もし、探索者が窃盗に成功した場合、峰不二子は「これだから人間は面白い」と言って、アルアジフを取り上げ、姿を消す。シナリオはこれで終了するが、過酷かつ SAN 値回復報酬がシナリオクリアだけになるのでできることなら KP から止めてください。

【約束の時間】

世界の哲学展・最終日が終了し博物館が閉館時刻になる時報が鳴ったとき、突然照明が消える。暗闇の中、叫び声とともに何かひしゃげる音がする。懐中電灯で明かりをつけるか、1分ほど待てば照明が復旧する。叫び声のした場所に向かうとネクロノミコンを警備していたはずの警官が横たわり、何者かの下敷きになっている。上に乗っているもののシルエットは人間のようなのに顔は犬のようでヒヅメのような足、かぎ爪の手を持って、横たわる警官の肉を貪り食っていた。そして探索者のほうをおもむろに向く。警官の無残な死体を見たことで 0/1d3 の SAN チェック。グールを見たことで 0/1d6 の SAN チェック。グール 3 体と戦闘。次元は探索者に味方してくれる。もし、20 時ちょうどに展示スペースにいるなら、銭形も加勢してくれる。

グールとの戦闘終了後植崎が現れ、探索者にナイフを突き出す。植崎隆との戦闘開始。

【ことの終着点】

グール 3 体及び植崎隆との戦闘に勝利したとき、植崎が最後の力をふりしぼりネクロノミコンに手を伸ばすが、その展示台はおぞましい本の代わりに「ごくろうさん」と書かれたカードが展示されていた。

銭形は植崎を公務執行妨害、暴行、及び殺人で現行犯逮捕し、部下にルパン三世の追跡を命令する。探索者には後でこの事件で事情聴取を行うことになる、と伝えたのち、探索者に感謝の意を述べる。

【エピローグ】

探索者の背後から「こいつは書き手に返すぜ」という声がする。探索者が振り向くとルパン三世がネクロノミコンを手にして立っている。ポケットからオイルライターを取り出し、着火してからネクロノミコンに近づける。ルパン三世の手から離れたネクロノミコンはオイルライターの炎を纏い、美しくも妖しく燃えていく。燃え逝く紙がたてる音はネクロノミコンの叫び声のようにも、遠い昔の音楽のようにも聞こえた。そのさまを見ていた人間は釘付けになっているだろう。博物館の火災警報器が作動し、けたたましい音が鳴ったとき、ルパン三世とその仲間たちは立ち去っている。銭形は部下たちにネクロノミコンの炎がほかの展示物に燃え移らないように消火すること、ルパンたちを追いかけることを指示し展示スペースから走り去る。スプリンクラーの水が、ネクロノミコンの炎を無慈悲に消していた。数日後、探索者は小包を受け取る。中には一般的な生活をしていれば決して見ることもない宝石と手紙が入っていた。危険な目に合わせてしまったことのお詫びらしい。手紙には、詫びの文章と世界の哲学展で展示されていたものは世界啓蒙会が所有するキタブ・アル＝アジフの写本であったが、内容は原典と変わらないらしい。ルパンたちはこれから、世界啓蒙会の本部があるアメリカに渡って本物のキタブ・アル＝アジフを盗む予定であるという旨が書かれていた。

銭形は探索者が植崎逮捕に貢献した人物として表彰してくれる。

【SAN 回復報酬】

シナリオクリア:1d6、アル＝アジフの破壊:1d3

【登場人物ステータス】

ルパン三世

STR:14 CON:15 SIZ:14 INT:16 POW:18 DEX:17 APP:11 EDU:15

Idea:80 Lack:90 Know:50 SAN:90 DB:+1d4 HP:15

Possession:ワルサーP38(ルガーP08 とステータスは同じとして扱う)、煙草(ジタン)、オイルライター

忍び歩き:60 跳躍:35 変装:81 目星:65 鍵開け:90 拳銃:61 聞き耳:85 博物学:50
心理学:75 説得:65

次元大介

STR:12 CON:11 SIZ:14 INT:13 POW:10 DEX:15 APP:15 EDU:12

Idea:65 Lack:50 Know:60 SAN:50 DB:+1d4 HP:13

Possession: S&W M19 コンバット・マグナム(38口径リボルバー)、煙草(マールボロ)、ジッポー、中折れ帽(次元のみ着用で火器の成功率+30%)

拳銃:70 聞き耳:65 応急手当:70 忍び歩き:60 ライフル:65 ショットガン:60
サブマシンガン:45 マーシャルアーツ(護身術):61

石川五右衛門

STR:15 CON:18 SIZ:15 INT:15 POW:14 DEX:16 APP:13 EDU:14

Idea:75 Lack:70 Know:70 SAN:70 DB:+1d4 HP:17

Possession:斬鉄剣(基本ダメージ1d10+DB、射程:タッチ、攻撃回数1)、

日本刀:90 ショットガン:60 聞き耳:75 変装:51 重機械操作:61 オカルト:55
精神分析:41 マーシャルアーツ(空手):81

銭形幸一

STR:16 CON:17 SIZ:15 INT:13 POW:18 DEX:17 APP:10 EDU:17

Idea:65 Lack:90 Know:80 SAN:70 DB:+1d4 HP:15

Possession:コルト・ガバメント(45口径オートマチック)、十手、手錠(耐久:6)

拳銃:80 マーシャルアーツ(柔道):71 組みつき:85 運転:70 目星:70 心理学:70 応急手当:60 目星:65 投擲:75

植崎隆(世界啓蒙会・日本支部長)

STR:11 CON:12 SIZ:13 INT:13 POW:16 DEX:9 APP:9 EDU:16

HP:13 DB:0 MP:16(ゲール召喚後 0、お守りで+5) SAN:74(80-6)

Possession:飛び出しナイフ、魔力増強のお守り(MP+5)

オカルト:75 図書館:60 英語:61 言いくるめ:80 哲学史:60 ナイフ:65

クトゥルフ神話:7

食屍鬼(ゲール)

	STR	CON	SIZ	INT	DEX	POW
その1	19	13	14	18	13	12
その2	14	14	14	9	14	12
その3	12	13	12	9	12	11

耐久力:13 DB:+1d6

武器 かぎ爪:30(ダメージ1d6+db)、噛みつき:30(1d6+1d4)

装甲:火器と飛び道具はロールで出た値の半分(切り上げ)

探索者に合わせて数を調整してもよい。

【権利表示】

本作は、「株式会社アークライト」及び「株式会社 KADOKAWA」が権利を有する『クトゥルフ神話 TRPG』の二次創作物です。

Call of Cthulhu is copyright ©1981, 2015, 2019 by Chaosium Inc. ;all rights reserved.

Arranged by Arclight Inc.

Call of Cthulhu is a registered trademark of Chaosium Inc.

PUBLISHED BY KADOKAWA CORPORATION

このシナリオはモンキーパンチ様原作「ルパン三世」の二次創作物です。

【使用フォント】

MS 明朝

ヒゲモ 01